

令和7年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

今治市教育委員会
今治市立上浦小学校
今治市立大三島中学校

1 取組の目的

上浦地区は、今治市最北、大三島の東部に位置している。島と海の美しい自然に囲まれた風光明媚な景勝地として知られ、しまなみ海道の中央部、広島県との県境を臨んでいる。

児童生徒は、これまでの防災学習により、避難訓練を体験したり、地域の避難場所について理解したりしているが、防災に対する意識は高いとは言えない。

そこで小・中学校が連携し、児童生徒の実践的・体験的な学びを通して防災意識の向上へとつなげていきたい。さらに、専門家による防災学習会を実施したり、地域や専門機関の助言を受けながら実践的な技術の習得に取り組んだりして、多様な視点から防災・減災について考え、様々な災害に対する行動力を身に付けさせたい。そして、自助・共助の力を発揮しようとする意欲を高めて、安全・安心な地域社会づくりの担い手として、地域に貢献できる児童生徒を育成する。また、各学校の中核教員を中心として、校内研修を通して教職員の更なる資質向上を図る。

2 取組の内容

<不審者対応避難訓練 4月28日上浦小学校 4月11日大三島中学校>



小学校では、伯方警察署と連携し、より実効性の高い不審者対応訓練を計画した。警察官が不審者役を務め、教職員へ事前に共有していた侵入経路をあえて変更して実施することで、不測の事態における判断力を養った。一方、中学校では同署員を講師に招き、さすまたの適切な使用法や発見時の迅速な連絡体制について、生徒および教職員が実技を交えて習得した。

<防災遠足 5月1日大三島中学校>



防災遠足において、地域の歴史的遺産（芋地蔵・村上海賊）と現代の防災施設を関連付けた学習を展開した。「島民の命を守り続けてきた場所」という視点で故郷を再発見させることで、郷土愛の醸成と防災意識の向上を同時に図ることを目的とした。

<外部専門家と連携した学習会 5月19日大三島中>



今治市北消防署大三島分署、市役所防災危機管理課、社会福祉協議会、および防災士会の協力を仰ぎ、災害時に役立つ実戦的な技術の習得を目的とした学習会を実施した。保護者も体験に加わり、地域一体となった防災意識の向上を図ることができた。

<多様な場面を想定した訓練 上浦小学校>



学校内にとどまらず、「いつ、どこで起こるかかわからない」自然災害を想定し、より実践的で多様なシチュエーションでの避難訓練を実施した。今年度は、修学旅行先という「非日常」の環境下での避難訓練を取り入れた。この訓練を通じて、生徒たちは「災害は時と場所を選ばず発生する」という厳しい現実を再認識することとなった。

<応急手当講習会 7月17日>



今治消防署の方々の指導のもと、小中合同の応急手当講習会を実施した。心停止時の生存率について学んだ後、班ごとに心肺蘇生法とAEDの使用手順を実習。一つ一つの工程を丁寧に教わり、実技を繰り返すことで、多くの児童生徒が迅速かつ正確な救命措置を習得する貴重な機会となった。

<愛媛大学と連携した防災学習 10月8日上浦小学校 7月17日大三島中学校>



上浦小学校では、愛媛大学の二神准教授をお招きし、地震・津波対策を想定した避難訓練の巡回指導とアドバイスをいただいた。第1次避難場所を各教室、第2次避難場所を校舎3階の教室に設定した。また、二神准教授や愛媛大学の学生、上浦小学校教職員のサポートのもと、4～6年生を対象に「避難所運営ゲーム（HUG）」を実施し、避難所で直面する多様な課題をシミュレーションすることで、児童は運営の難しさや配慮すべき点について、実践的な学びを深めることができた。



大三島中学校では、愛媛大学の二神准教授をお招きし、カードゲーム「クロスロード」を用いた防災講習会を開催した。正解のない問いに対し「YES/NO」で即断し、理由を共有する活動を通じ、楽しみながら瞬時の判断力や多角的な視点、自分なりに考え抜く姿勢の大切さを学んだ。

<今治市総合防災訓練 9月27日>



今治市が主催となって地域一体となった今治市総合防災訓練に参加し、小中学生は被災者役のほか、デジタル受付や浸水歩行など実践的な活動を体験した。訓練を通じて、地域の防災体制と応急対策の強化を図るとともに、次世代を担う子どもたちの防災意識を高め、安心・安全なまちづくりへの一歩となった。

<今治市防災教育推進連絡協議会 10月10日>



市内各小、中、高等学校防災担当者、各地区自治会防災部員、行政関係者等が集まり、連絡協議会を行った。防災教育研究校の実践発表や防災危機管理課職員による講話、地区別小グループに分かれての協議等を行い、防災教育や避難所開設等について、学校と地域関係者、行政関係者との連携を図った。

<成果発表会 11月17日>



事業のまとめとして、成果発表会を行った。中学校で授業公開を行った後、全体会を行った。今治市の学校関係者をはじめ、地域関係者、行政関係者、東予地区他市町の学校関係者等に向けて取組を発表し、成果を広めた。

3 取組の成果

小・中連携による共通の全体計画を策定したことで、系統かつ具体的な年間指導計画の運用が可能となった。関係機関との連携学習では、多様な経験を持つ専門家の声を通じて、児童生徒が自他の命を守る行動を「自分事」として捉える貴重な機会となった。

本研究最大の成果は、学校・家庭・地域の三者が緊密に連携した防災学習を推進できたことである。小中合同活動や地域連携を重ねる中で、コミュニティの結束はより強固なものとなった。防災学習は子どもたちの成長に留まらず、地域全体の意識を大きく変容させ、三者の絆をより深める確かな一歩となったと実感している。

4 今後の課題

さらなる防災教育の発展には、教育課程への確実な位置づけを明確にするとともに、大三島小学校を含む島内3校合同会議での年間行事調整を通じ、より計画的・継続的な体制を構築することが不可欠である。また、教職員間では「危険箇所の変化に伴う情報の継続的なアップデート」の重要性が共有され、地域住民からは「コミュニティ・タイムラインの効果的な活用」を求める声も上がっている。

今後も学校・家庭・地域の連携を深め、「命を守る」架け橋をより強固なものへと築き上げていきたい。